

令和4年度
事業計画書



社会福祉法人 一真会
ISSHINKAI social welfare corporation

(福)一真会
令和4年度 事業計画

— もくじ —

- I 基本方針
 - II 運営事業
 - III 役員の状況及び理事会等の開催
 - IV 組織図
 - V 運営方針
 - VI 事業目標
 - VII 資金計画及び資金収支予算
 - VIII 人事計画
 - IX 会議・委員会計画
 - X 事業所別運営計画(別紙)
 - XI 事業所別利用計画
 - XII その他の計画
-

社会福祉法人 一真会

令和4年度 事業計画

I.法人基本方針

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、さらには新たな変異株の出現により収束する兆しが見えない中、私たちの生活にも大きな変化が生まれ、福祉の在り方も問われています。当法人としましては、これまでご利用者の健康で安心・安全な生活を守るために、職員一丸となり感染予防対策に取り組んできました。今の状況が少しでも早く収束に向かうことを心から願い、これからも継続して万全な体制で臨んでいく所存です。

さて、昨年度は当法人にとって節目となる丸10年を迎えることができ、また新たな10年へと走り出しました。

「地域に根差した施設運営」を胸に今日まで運営してこられたのは、地域の方々をはじめ、当法人へ関わる全ての方々に支えられてきたからこそ実現できたのだと、改めて強く感じております。

しかし、近年はコロナウイルス対策を始めとした諸課題が山積していると同時に、多様化する福祉ニーズへの対応も求められております。生産年齢人口の減少や急速な少子高齢化、地域社会の脆弱化など、社会福祉法人の経営をめぐる課題は様々であり、我われ社会福祉法人に求められる役割や本来の使命を再度認識し、地域の福祉ニーズに向き合い対応していかなければなりません。

”福祉は究極のサービス”。この基本理念を強く意識し、法人が継続的に成長・発展していくためにも、より一層地域とのつながりを強固なものにし、地域の一員として、そして地域の要となるよう、常に資質向上を図り、今後も持続可能な法人経営を目指してまいります。

2021年度介護報酬改定において、(1)感染症や災害への対応力強化、(2)地域包括ケアシステムの推進、(3)自立支援・重度化防止の取り組みの推進、(4)介護人材の確保・介護現場の革新、(5)制度の安定性・持続可能性の確保、の5つの柱立てが重視され、その中の一つに、すべての介護サービス事業者に対してBCP(業務継続計画)策定が義務付けられました。これは、今なお猛威を振るう新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、感染症のみならず災害が発生した場合でも、利用者に必要な介護サービスが継続的に提供できる体制を構築する必然性が増してきたからです。業務継続に向けた計画等の策定、研修の実施、訓練(シュミレーション)の実施等が運営基準で義務付け(3年の経過措置)となっています。当法人としまして、緊急事態が発生した場合でも、必要な福祉サービスが提供し続けられるよう準備してまいります。また、「科学的介護」の導入として、介護分野のデータベース「CHASE」「VISIT」の一体的な運用による「LIFE(科学的介護情報システム)」が稼働となりました。介護施設や事業所より入力された利用者の情報を、厚労省が分析して各施設にフィードバックされる仕組みとなっています。ここでフィードバックされた情報を活用し、利用者情報のみならず、施設・事業所全体を把握することで、PDCAサイクルの構築を通じた継続的なサービスの質の管理をし、より効果的な自立支援・重度化予防につながるケアと運用をしてまいります。

2016年、地域住民や地域の多様な主体が分野や属性の壁を越えた協働を実践し、誰もが支えあう地域を創っていく事を目指すとして、「ニッポン一億総活躍プラン」の内容に盛り込まれた「地域共生社会の実現」に向けて、我われ社会福祉法人に求められる役割を考え今日まで取り組んでまいりました。現在、官民間問わず、様々な方面でも注目され、社会福祉法人のあり方・理念とも共通する考え方である「SDGs」が重要視されております。SDGs(持続可能な開発目標)とは、「誰一人取り残さない」という理念のもと、17ゴールと169のターゲットから構成されており、社会福祉法人にとっても、人口減少など変化する社会の中で地域の福祉サービスを持続させていくため、当法人も取り組んでいかなければならないと考えております。まずは、法人で実践してきた事を17のゴールと紐づけして新たな可能性を検討していきたいと思っております。さらに、地域の多様な主体と協力しながら、社会福祉法人としての強みを生かし取り組んでまいります。

さて、当法人では「人(職員)は財産である」との考えのもと、事業運営をしてまいりました。昨今の福祉人材の不足という問題に直面している中、人材確保と育成が法人の将来を占う上で、いかに生産性向上とともに、働く機会の拡大や意欲・能力を発揮できる環境を創り出せるかが重要と考えます。個々の事情に応じた、多様な働き方を選択できる場を提供し、一人ひとりがより良い将来の展望を持てるよう、環境整備に取り組んでまいります。また、人材不足を解消するには、新たな人材確保とともに、離職を少なくする取り組みも必要です。福祉の現場から離職する理由で多いのは、理想と違った、相談できる相手がいない、法人の目指しているものがよくわからない、将来性に不安を感じるなどがあります。法人内でのポストや賃金水準を重視する方もいますが、それだけではモチベーションを保つことは難しく、いかに社会や地域、人に対して貢献できるかが重要になってきていると感じます。柔軟な働き方やキャリアアップを含め、福祉に魅力を感じ、福祉の仕事をしたいと心から思える人を増やしていくため、組織内におけるチーム力の育成・改善・向上を図ってまいります。

既存事業の施設サービスにおいては、新型コロナウイルスの影響やご利用者の重度化による、入院や退所、利用休止などで稼働率の低下につながってしまうケースも増えてきておりますが、今後も継続して職種間の連携強化を図りながら一人ひとりの心に寄り添ったケアを大切に、ご利用者の笑顔と、最後まで尊厳の守られた生活ができるよう取り組んでまいります。

4月1日で丸2年を迎えた「にしの杜保育園」は、2年間で29名の園児が巣立ちました。子どもの人生の土台を築く過程に携われること、そして、その子供たちが大きく成長し、新たなステージへ踏み出す瞬間に立ち会える喜びを感じることができました。

私たちは未来を担う子どもたちの人生のスタートラインに携わっております。子どもの育成の専門家として、日々子どもたちと向き合い、子どもたち自身が様々な体験・経験を重ね成長できる環境を創ることが、私たちの役割ではないかと考えます。

全国的な少子化問題により、保育を取り巻く環境も変化している中、未来を託す子どもたちのために、保育環境の整備と更なる質の向上を図りながら保育運営を行ない、十文字西地域の福祉発展に貢献することで、社会福祉法人としての使命を果たしてまいります。

「高齢者くらしのサポートセンター花むつみ」(旧横手市低所得高齢者等住まい・生活支援事業)については、2016年の社会福祉法人制度改革の中で、社会福祉法人の責務として地域における公益的取り組みの実施が制度として求められるようになりました。社会福祉法人としての本来の使命や役割を考える上でも、引き続き可能な限り地域高齢者をはじめ地域住民の実状や個別ニーズの開拓を行ない、横手市居住支援協議会の会員法人として責任感を持ちながら、公益性と専門性という社会福祉法人が持っている機能を活かし、地域資源(人・組織・モノ等)の協力を仰ぎながら事業推進を図っていきたいと思います。

2025年、2040年と、この先の将来を展望したときに、人口減少問題や地域社会の変化に伴う福祉ニーズの多様化などにより、我われ社会福祉法人の役割と責任はより大きくなるものと考えます。

そのような中で、地域共生社会の実現を目指し社会福祉法人としての使命を果たすべく、地域における良質かつ適切な福祉サービスを提供し続け、多様な主体と連携・協働を推進し、地域の福祉サービスの担い手として職員一丸となり、利用者の皆様や地域の方々から信頼される法人であり続けるために精進してまいります。

法人基本理念

私たちは、生活の基準のすべてをお客様に負っている事を自覚し、お客様一人ひとりの人権・人間性を重んじその人らしい生活を送ることができるようあらゆる面から支援します。福祉は究極のサービスととらえ、地域のベスト介護・福祉事業者を目指す法人としてお客様へ最も優れたサービス(人財)を提供することにより、人々が豊かでゆとりある生活・文化の向上と地域社会の発展に貢献します。

II. 運営事業

1. 社会福祉事業

(1) 高齢者福祉(介護保険事業)

① 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護

特別養護老人ホーム 花むつみ(定員29名) 【第1種社会福祉事業】

② 小規模多機能型居宅介護

小規模多機能の家 花むつみ(登録定員29名) 【第2種社会福祉事業】

小規模多機能の家 サテライト花むつみ(登録定員18名)

③ 居宅介護支援 介護の相談所 花むつみ 【公益事業】※会計上は社会福祉事業

④ 通所介護

炭酸の湯 ほっとデイ 花むつみ(定員10名) 【第2種社会福祉事業】

⑤ 短期入所生活介護

風薫る宿 花むつみ(定員28名) 【第2種社会福祉事業】

(2) 児童福祉事業

① にしの杜保育園(定員70名) 【第2種社会福祉事業】

② 学童保育 十文字なかよし(定員40名) 【第2種社会福祉事業】

2. 公益事業

- ①高齢者等住まい・生活支援事業
高齢者くらしのサポートセンター 花むつみ
- ②人材育成養成研修事業

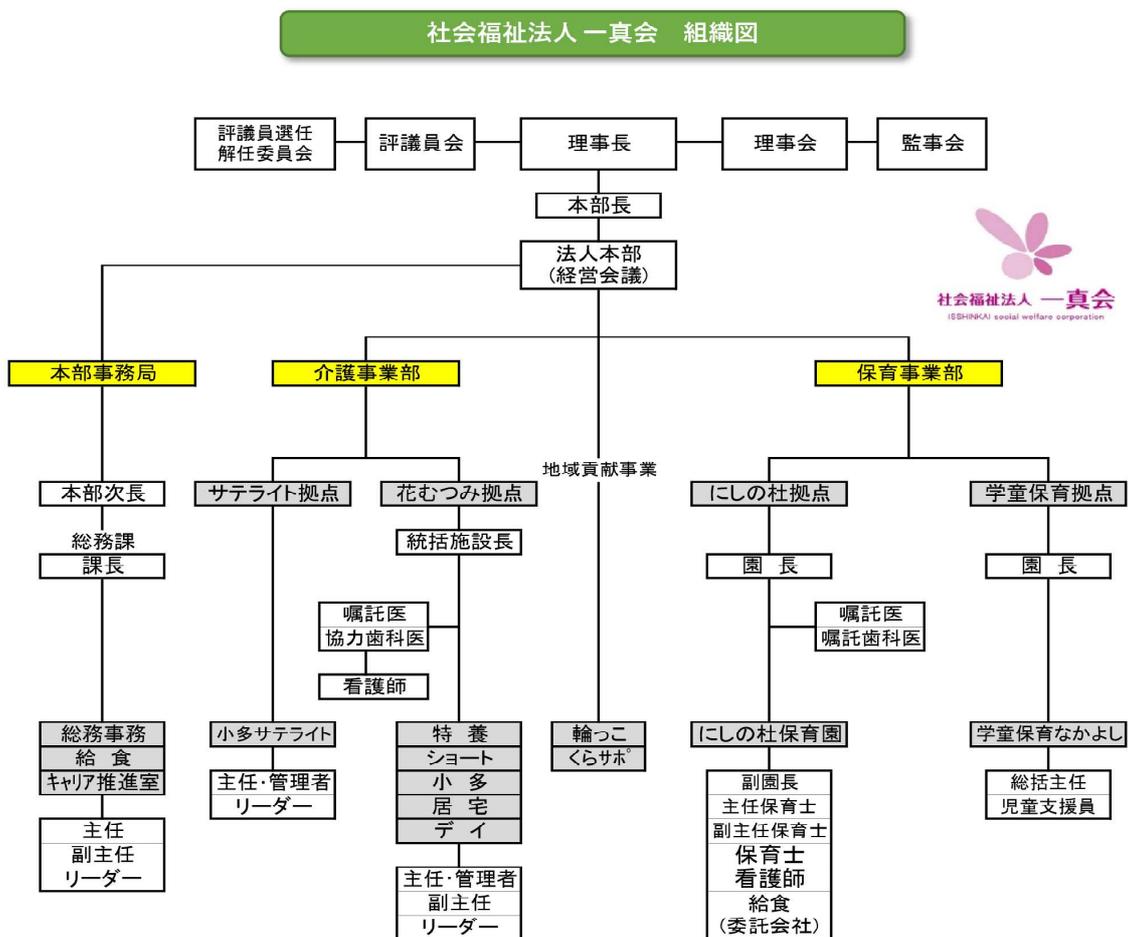
3. その他事業

- ①地域支援事業(法人地域貢献事業)
多世代地域サロン coco de 輪っこ

Ⅲ. 役員 の 状 況 及 び 理 事 会 等 の 開 催

- (1)役員等数 評議員 7名／理事 6名／監事 2名／評議員選任解任委員 4名
- (2)定例理事会等の開催
 - 1. 監事による法人監査の実施(5月中旬)
 - 2. 第1回理事会(5月下旬) 前年度事業報告・決算の承認
 - 3. 評議員会 (6月上旬) 前年度事業報告・決算の承認等
 - 4. 第2回理事会(11月下旬) 中間報告・補正予算等
 - 5. 第3回理事会(3月下旬) 次年度事業計画案・予算案等

Ⅳ. 組織体制図



V.事業運営方針

1.介護事業部

地域包括ケアシステムを念頭に、「慈・愛・心・睦」の施設運営理念のもと、ご利用者一人ひとりが、その人らしく生きていける生活の支援を実践していきます。

施設が単なる介護福祉施設ではなく、各事業を通じて福祉・介護についてのノウハウ・情報を地域に開放し、介護の社会化を図り福祉教育の一助となる事業展開を進めていきます。

そして、地域に密着した施設として、地域行事や地域密着型運営推進会議等により、地域住民への情報発信及び意見を収集した中で、開かれた施設運営を行うことで、ご利用者と地域との架け橋となるよう努めます。

<運営方針>

- ①業界の需給状況の変化や制度改定など市場環境の変化を見据え、お客様のニーズを把握し、お客様の立場に立ったより良いサービスを提供するために、常に改善意識をもち実践していく。
- ②自立経営の実現を軸に、経営基盤や組織作りを支えるのが職員であると位置づけ、その一人ひとりが考え主体的に行動できる風土を、職場をあげて取り組むよう図る。
また、職員教育にも力を入れ、本部機能として人財開発を手掛けるメンバー体制を整え、外部・内部研修を組み合わせ一人ひとりのマンパワーの育成を図る。
- ③事業継続に必要な財源確保のため、マーケティング力・情報発信、或いはニーズの発掘などをもとに、適切な収入を確保する。また財務計画に基づき、適切で且つ最少の経費で最大の効果が得られる経営を目標に基盤強化に努める。
- ④地域から愛される運営を行なうため、地域住民との交流と連携を図っていく。また、地域の交流センターとも連携した取組みを継続して行っていく。

施設運営理念

慈 愛 心 睦
きずな おもいやり つながり ふれあい

私たちは、みなさまと互いに寄り添い、やすらぎのある環境の中で、一人ひとりの意思を尊重し、生き生きとした暮らしを支えています。

2.保育事業部

子どもの最善の利益を考慮し、専門性を有する職員が家庭との連携のもと養護と教育を行い、子どもたち一人ひとりの個性を尊重しながら、自主性と社会性、郷土愛を育むよう、子どもたちの成長を見守る保育をしていきます。

<保育方針>

- ①安全な環境の中で、子どもたちが満足して生活できる保育を目指します。
- ②一人ひとりの個性を尊重し、自主性を育む保育を目指します。
- ③集団生活の中で基本的な生活習慣を身につけ、友達との関わりの中で社会性を身につけることを目指します。
- ④家庭との連携を大切に、子供の成長を見守る保育を行います。
- ⑤地域との関わりを大切にし郷土愛を育みます。

保育目標

心身ともに健康な子ども 意欲的に遊べる子ども 感性豊かな思いやりある子ども

VI.事業目標

1.組織づくりと人材育成・人事制度

- ①法人としての組織づくりを行ない、しくみの見直し等も図り、職員一人一人のマンパワーを育てる環境を整え、組織力を強化する。
- ②キャリア推進室との連携を密にし、研修計画(OJT・OFF-JT)をたてることで、新任・中堅・役職等の段階に応じた研修を通じ、人材育成を図る。
- ③スキルアップのための資格取得を応援し、その制度の拡充を図る。
- ④福利厚生については、社会保険等は勿論のこと、職員が「働きやすい環境」「働きがいのある環境」づくりをし、仕事と家庭の両立支援を推進しながら人材の定着を図る。

2.財務基盤の安定化(自立健全経営の実現)

- ①必要なサービス体制の強化と質の向上を図り、加算報酬の算定体制を整えていく。
また、事業の稼働率確保を目標として情報発信等の広報・営業活動を通じたニーズの発掘をし、今後も利用者数を継続維持できる事業運営を行う。
- ②安定的なサービス提供をもとに、ご利用者の利用促進を図る。

3.社会機能の強化

①地域交流と施設の開放

自法人運営の「にしの社保育園」との連携を密にし、子供たちとの交流を推進する。そして、地域の行事や施設行事に参加して頂き、地域との交流も積極的に推進し、高齢者の社会参加を促しながら、地域との交流を深めていく。

隣接の睦合小学校閉校に伴い、春・秋の交通安全運動がなくなったため、職員による地域のクリーンアップを行ない、地域の方々との交流を図る。

また、継続して人工炭酸泉の足湯を地域に開放し発信することにより、人工炭酸泉の効能やメリット等の普及は勿論のこと、地域住民との交流及び住民と利用者の交流の促進

を図る。

さらには、地域での介護教室の開催・介護サービス見学会、介護職員初任者研修などを通じて、施設が地域の財産となるよう努めていく。(十文字西交流センターとの密な連携)

②個人情報保護と情報開示

個人情報保護に関する法令、その他の規範を遵守し、個人情報の保護に努める。また、個人情報の利用目的を特定し、公正かつ適切に取り扱う。

情報開示について、情報公開制度や地域密着型サービス外部評価及び広報紙の活用、決算報告・事業報告、日々の活動等をホームページ等を通じて公開する。

また、労働環境・会社制度等の情報開示も行い、慢性的に不足している人材の確保策としての一環として推進していく。

③ニーズの発掘

日常生活支援からの利用者ニーズは勿論のこと、居宅介護支援事業における相談内容による発掘、通所介護事業やショートステイ事業などの在宅サービス事業におけるニーズ、また家族アンケートや地域交流等を通じてニーズの発掘を行う。

④行政及び同業者との連携

横手市健康福祉部、各地域局福祉課、地域包括支援センターや居宅介護支援事業者・その他同業者との更なる連携を図り、地域福祉の活性化に貢献する。

4.危機管理体制(リスクマネジメント)

①サービス提供体制

介護事故を未然に防止する体制の強化。ヒヤリはっと等の集計により、一つの事故の前兆を把握し未然に防止する体制を管轄委員会にて行う。

②災害防止対策

委員会の開催、計画の策定、研修の実施、災害発生時の訓練を行う。

施設内外の危険箇所の把握、点検、改善等の防災対策を徹底する。

施設の防災設備が円滑に機能するように、点検、設備を常に励行し、災害等の被害が拡大しないように努める。

火災・地震・水害等の災害が発生した場合、利用者様の安全確保に迅速に対応できるよう、地域の消防団等の協力を得ながら、年2回の防災訓練を行なう。

また、他県で発生した福祉施設の水災被害の教訓も受け、国の指針等に従い防災対策も行っていく。

③感染症対策

委員会の開催、計画の策定、研修の実施、感染症発生時の訓練を行う。

内部研修や外部研修、うがい、手洗い、マスクの着用を基本とし、初期対応の重要性を認識し、必要時には居室隔離及びその他対応策を実行する。また、出勤時の検温や体

調不良時の上司への報告も徹底する。さらに、嘱託医とも連携を蜜にし、拡大防止を図る。

5.会議・委員会活動

花むつみの理念に沿った会議・委員会による活動を行い、自発的な組織活動を促す中で自立した組織体制の構築を継続する。もって、地域社会の一員としての機能強化も図る。

(後述:会議委員会活動参照)

6.環境整備と社会貢献活動

施設内外の環境を整備し、地域に愛される施設づくりをしていく。敷地内における樹木等の管理や草刈り作業等による景観整備も継続していく。施設経年劣化等による、修繕箇所等も発生してくると思われるため、日々の管理を徹底していく。

社会貢献活動としては、居住支援協議会の会員として、「高齢者くらしのサポートセンター事業」の推進や、地域の元気高齢者を対象とした地域連携事業、そしてサロン活動なども行っていくことで、社会福祉法人としての責務を全うし、地域に開かれた運営を行い、地域に貢献していく。

7.マーケティング戦略とコミュニケーション力の強化

①マーケティング戦略

事業ごとに変容する競争環境や内部状況に合わせ、マーケティング戦略の策定と実施を主軸とし、多くのニーズに応えられるサービス提供体制を敷いていく。

また、将来の環境の変化に備え、安定的な経営基盤を構築するため、既存事業のみならず、新たな事業やサービス又は事業連携の可能性などを研究・模索していく。

②コミュニケーション力・広報戦略

「イメージ戦略担当者会議」において、介護業界のイメージアップ及び法人の魅力等を伝えるツールとしてのホームページ・ウェブメディア・その他SNS、各種媒体等を通じた広報活動の拡大により、イメージアップを図っていく。

また、メディアのみならず職員が一丸となり、足を使って各方面への広報活動も行うなかで地域とのコミュニケーション力も強化していく。

その他、マスコットキャラクター「花シス」も活用し、親しみやすい法人としての取組みを行っていく。



マスコットキャラクター " 花シス "

8. 苦情解決と権利擁護

苦情解決窓口の設置はもとより、第三者委員の設置による助言等により、公平な観点から苦情の迅速かつ適切な解決に努める。

また、利用者等の苦情をサービスの向上のための貴重な意見として位置づけ、積極的に検討し今後のサービス向上に活かす。

権利擁護については、虐待防止の組織的取り組みを委員会にて行う。

VII. 資金計画及び資金収支予算

運営経費は、介護事業部は介護サービス利用料及び介護給付をもって運営する。

また、保育事業部は、保育給付費及び事業補助金、学童委託料をもって運営する。

運営にあたっては、運営経費のより効率的な執行を図り、その節減に努める。

(資金収支予算計画は別紙「資金収支予算書」のとおり)

VIII. 人事計画

1. 職員の処遇改善

介護職員の処遇改善を目的とした「処遇改善加算」及び「介護職員等特定処遇改善加算」に続く「介護職員処遇改善支援補助金」、保育士の処遇改善を目的とした「処遇改善加算Ⅰ」及び「処遇改善加算Ⅱ」の加算を算定し、介護職員並びに保育士に分配する。

処遇改善を通して職員の定着または人材確保策の一環としてつなげていく。

2. 人事異動

人財育成を目的とし、各ユニットや事業間での人事異動や配置変更等を行い組織の活性化を図る。

3. 人材確保策

介護・看護・保育の人材不足を背景に、人材の確保が困難になってきており、法人としてできる最大限の力を発揮し、人材確保を行うとともに、離職防止にも努める。

「イメージ戦略担当者会議」との連携を密にし、法人の情報をホームページ・SNSを媒体とした情報発信を行い、法人の職場制度や職員の生き生きとした職場風景などを公開し、法人の透明性や考え方などをアピールしていく。また、各種就職フェア等にも積極的に参加し、法人のもつ魅力など情報発信を行い、求職者に知ってもらうことも確保策の一環とする。また、ハローワーク等の人材紹介業、または学校等の教育機関とも連携し確保につなげていく。

4. 資格取得の奨励

関係資格の情報発信を絶えず行い、職員のキャリアアップを推進し、資格取得支援制度を活用し奨励していく。また、制度内容の拡充を検討する。

5.施設管理者・役職者計画

()は兼務

法人本部	本部長(1) 本部次長(1) 総務課					
実施事業(施設)	施設長	課長・園長	管理者	主任		副主任・リーダー
特別養護老人ホーム	1	1 ※施設長補佐 含む	(1)	介護1・看護1	総務1 栄養1	副(2)リ(3)
短期入所				(副管理者1)		リ2
小規模多機能			1			1
小規模サテライト			1			
居宅介護支援			1	-		
通所介護			1	-		
くらしサポート			(1)			
保育園		1	-	保育士1		副(2)
学童保育			(1)	統括1		

5..職員全体配置計画

【介護福祉事業】(令和4年4月1日現在)

SS=ショート

配置職員	本部	特養	SS	小多	サテ	居宅	通所	実数	備考
本部長	常	1						1	
本部次長	常	1						1	
統括施設長		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)		本部長兼務
施設長補佐	常	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)		本部次長兼務
総務課長	常	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)		本部次長兼務
施設・在宅課長	常	(1)	(1)	(1)				(1)	施設長兼務
総務事務	常	2	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	2	
	非	2	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	2	
用務技師	常	1	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	1	
管理者	常	(1)	(1)	1	1	1	1	4	
副管理者	常		1					1	
介護職員	常	14	11	8	7		2	42	
	非	4	3	3	1		1	12	
務補助員	非	1	2					3	
看護職員	常	1	2	1	(1)			4	
	非	1					1	2	
嘱託医師	非	1	(1)					1	
生活相談員	常	1	1(1)				(1)	2	相談員・管理者兼務
ケアマネージャー	常	1		(1)	1	(1)		2	
	非					1		1	
栄養士	常	1	(1)	(1)			(1)	1	
調理員	常	3	(3)	(3)			(3)	3	
	非	7	(7)	(7)			(7)	7	

配置職員		本部	特養	SS	小多	サテ	居宅	通所	実数	備 考
宿直管理人	非		(3)		3				3	
産休育休職員	常			2					2	相談員・介護員育休
合 計	常	4	22	16	11	8	0	3	64	
	非	2	14	5	6	1	1	2	31	
	計	6	36	21	17	9	1	5	95	

【児童福祉事業】（令和4年4月1日現在）

配置職員		にしの杜保育園	学童保育なかよし	実数	備 考
園長	常	1		1	
副園長	常	1		1	
主任保育士	常	1		1	
副主任保育士	常	2		2	
保育士	常	9		9	
支援員	非		3	3	
看護師	常	1		1	
産休育休職員	非				
その他	非	2		2	バス運転手1名、業務補助1名
合 計		17	3	20	※事務1名、用務2名本部兼務

※栄養士・調理員は外部業者へ委託（株式会社メフォス）

＜職員データ＞ ※()は昨年値

●平均年齢 : 47歳 (44歳)

●男女比 : 男性 17% (20%) 女性 83% (80%)

IX.会議・委員会計画（花むつみ）

○数字＝法制度上の必須委員会

会議名	目的	構成職員
① 運営会議 (労働安全衛生委員会・苦情解決委員会・事故災害感染対策本部 含む)	・運営全般を通して各事業の課題抽出、検証、改善等のPDCAサイクルを行い、事業全体のサービス向上を目指す ・苦情解決の取り組みを通じて、サービス向上を目的とする ・有事の際の事故災害等対策本部を設置し、その対応にあたる	役職者
② 地域密着型運営推進会議	・地域に密着し開かれた施設にする為に、地域の声を出して頂き運営に反映させる	地域代表・利用者 ・家族代表・行政職員・民生委員

会議名	目的	構成職員
③ 事業所会議・医務会議 (業務改善会議)	・各事業所及びキッチン等各部署における業務改善・行事計画実施・検討 (位置付け＝スタッフ会議))	各配属職員
④ ユニット会議/ケア会議 (サービス担当者会議)	・個別の利用者の支援計画に基づき、サービス検討 (感染・褥瘡・事故防止・身体拘束含む)(サービス担当者会議)	各配属職員
5 キャリア推進定例会議	・キャリア推進室の進捗打合せ、今後の確認等	室員他
6 イメージ戦略担当者会議	・IT・紙媒体・施設環境等の改善により施設のイメージアップにつながる取り組みを行い、魅力や介護という仕事の楽しさ、やりがいを戦略的に広報	担当他

委員会名	目的	構成職員
① お引越し検討委員会 (入所判定)	・特養への入所において、透明性・公平性を確保し、要綱に従い入所判定を行う。	施設長・総務課長・支援課長・相談員・介護主任・看護主任
② ケア検討安全委員会	(ケア連携)介護・看護の連携による医療的ケア実施にかかる体制等の検討 ・(感染症対策)感染症予防対策及びマニュアル作成改定等を行い、感染症を防ぐ対策及び有事の際の対策を図る ・(身体拘束)身体拘束廃止に向けての取り組み ・(事故防止)事故防止の為に、ヒヤリはつとの集計・分析等によるリスクマネジメントを図る	設長・総務課長・施サ長・看護主任・介護主任・管理者
3 おいしい食事委員会	・食全般について検討し、食生活の向上を図る。 ・食中毒予防(※感染対策委員会との連携)	各部署より・看護・調理等
4 ケアリングクオリティー向上委員会	・理念の伝達 ・利用者がより快適・安全に生活向上 ・人とのつながりを大事に、お一人おひとりの思いを共有し、さらにお身を寄せながらケアの輪を重ねていくことを目指す	各部署より

委員会名		目的	構成職員
5	行事・広報委員会	・行事を通し、利用者の生活に潤いと充足感を提供する(屋外クリーンアップ活動) ・家族、地域、関係機関に対し、花むつみに対しての理解や啓発を図る	各部署より
6	環境改善委員会	・環境の美化に努め快適な環境を構築する ・5S活動の推進 ・点検活動(美化清掃・車両)	各部署より
7	交通・防災委員会	・災害の予防警戒・鎮圧、利用者及び重要物件の安全を確保するための必要な事項の検討 ・点検活動(防災) ・職員の安全運転を喚起し、交通事故の防止に努める	
8	I'esプロジェクトチーム (あいズ)	・社内での従業員満足(ES)を高めるための方法を検討し、意見交換や提案を行なう ・有効な手段で法人運営に反映できるよう、従業員の意見集約活動を行う	各部署より

X.事業所別運営計画・・・別紙のとおり

XI.事業別利用計画 (利用人数・稼働率見込)

<稼働率(年平均)>

(1)特別養護老人ホーム	花むつみ	95.7%
(2)短期入所生活介護	風薫る宿 花むつみ	94.6%
(3)小規模多機能の家	花むつみ	91.0%
(4)小規模多機能の家	サテライト花むつみ	75.0%
(5)居宅介護支援	介護の相談所 花むつみ	別紙人数
(6)通所介護	炭酸の湯 ほっとデイ 花むつみ	72.0%
(7)にしの杜保育園	園児数平均	64名
(8)学童保育なかよし	児童数概ね	20～30名

※詳細 : 介護事業については別紙「利用人数・稼働率見込表」のとおり

XII.その他の計画

- (1)法人広報誌の発行 = Only One 年2回(春・秋)
 キャリア推進室だより = FLEUR 年3回(5・9・1月)
 (2)職員健康診断 = 年2回(5月・11月)
 (3)利用者健康診断(X線撮影) = 年1回(春)

- (4)各種実習の受入 = 高校・中学校・養護学校等の職場体験・実習等の受入を積極的に行っていく。 ※コロナ感染状況による
- (5)地域との交流促進 = 各種行事は勿論のこと、地域との関わりを広げ、地域参加を積極的に行い、施設が地域の存在としての基盤を強化する。
地域交流センターとの連携も軸とする。

令和4年4月1日
社会福祉法人 一真会

(別紙)

X.事業別運営計画

<社会福祉事業>

1.特別養護老人ホーム 花むつみ

(1)基本方針

- ①施設は、入居者一人一人の思いや人格を尊重し、施設サービス計画に基づき、利用者の居宅における生活への復帰を念頭におき、入居前の居宅における生活と入居後の生活が連続したものとなるよう配慮しながら、各ユニットにおいて入居者が相互に社会的関係を築き、自立的な日常生活を営むことができるようになることを目指すものとする。
- ②事業の提供にあたっては、入居者個々の特性や人格を尊重し、常に入居者のよき理解者であり入居者の思いに寄りそったサービス提供に努めるものである。
- ③事業の運営にあたっては、明るく家庭的な雰囲気有し、地域や家庭との結びつきを重視しながら関係する市や介護保険サービス提供者等と密接な連携を図るものとする。

(2)利用者様の処遇

ユニットケアサービスの特性を生かし、その人に合った処遇を実施して平凡ながら生きがいのある生活を送れるよう配慮する。

利用者の一人ひとりの生活の流れに沿った、個別性の高いサービスを提供できるよう、職員が生活の支援者として、利用者のかたわらに寄り添ったサービスを提供する。

また、食事に力を入れ、身体状況、栄養、嗜好に配慮した食事を提供する事は勿論のこと、季節感を大切にし、時節の行事等に応じた食事の提供を行なう。

(3)健康管理

施設の医師または看護師は、必要に応じて健康保持のための適切な措置を取る。

看護職員による体温、脈拍、血圧、体重測定などにより日々の健康管理を行ない、利用者様の身体的、精神的特徴を考慮し、個人の健康状態の的確な把握に努める。

たん吸引等の行為を法令に基づき行い、医師、看護師、介護員の連携のもと定期的なケア連携委員会を開催し安全に行なう。

設備、備品等の衛生管理に努め、または、衛生上必要な措置をし、医薬品、医療用具の管理を適正に行なう。

感染症の発生、蔓延を防止するために感染症対策マニュアルに沿って必要な措置を講じる。

(4)日課

ユニットケアの特性から、利用者様個々の日課に合わせたケア体制とするが、食事の時間のみの日安は下記の通りとする。

- ・朝食 7時30分ころ～
- ・昼食 12時00分ころ～
- ・夕食 18時00分ころ～

(5)行事予定

各ユニット毎に、季節に応じた各種行事を企画し、実施する。

家庭的な雰囲気を大事にし、利用者様の個々の時節の行いを継続できるよう支援する。

全体行事としては、花むつみ祭を9月上旬に行なう。

(6)事業所の名称等

- ①特別養護老人ホーム 花むつみ
横手市十文字町睦合字川井川47番地

(7)営業日等

- 営業日 = 年中無休 24時間
定員 = 29名
職員数 = 15~20名 (その他、事務調理等)

2.短期入所生活介護 風薫る宿 花むつみ

(1)基本方針

- ①事業所の従業者は、要介護状態等の心身の特性を踏まえて、その利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、さらに利用者の社会的孤立感の解消及び心身機能の維持並びにその家族の身体的、精神的負担の軽減を図るために、必要な日常生活上の世話及び機能訓練等の介護その他必要な援助を行なう。
- ②事業の実施に当たっては、利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ってサービスの提供に努めるものとする。
- ③予防事業については、利用者の心身機能の改善、環境調整等を通じて、利用者の自立を支援し、生活の質の向上に資するサービス提供を行い、利用者の意欲を高めるような適切な働きかけを行うとともに、利用者の自立の可能性を最大限引き出す支援を行うものとする。

(2)利用者様の処遇

その方の在宅と施設の差をできる限りなくし、その人に合ったケアを実施して平凡ながら生きがいのある生活を送れるよう配慮する。

利用者の一人ひとりの生活の流れに沿った、個別性の高いサービスを提供できるよう、職員が生活の支援者として、利用者のかたわらに寄り添ったサービスを提供する。

また、食事に力を入れ、身体状況、栄養、嗜好に配慮した食事を提供する事は勿論のこと、季節感を大切にし、時節の行事等に応じた食事の提供を行なう。

(3)健康管理

施設の医師または看護師は、必要に応じて健康保持のための適切な措置を取る。

看護職員による体温、脈拍、血圧、体重測定などにより日々の健康管理を行ない、利用者様の身体的、精神的特徴を考慮し、個人の健康状態の的確な把握に努める。

たん吸引等の行為を法令に基づき行い、医師、看護師、介護員の連携のもと定期的なケア連携委員会を開催し安全に行なう。

設備、備品等の衛生管理に努め、または、衛生上必要な措置をし、医薬品、医療用具の管理を適正に行なう。

感染症の発生、蔓延を防止するために感染症対策マニュアルに沿って必要な措置を講じる。

(4)日課

ユニット配置ではないものの、隣接の特別養護老人ホームのユニットケアのサービス体制に習い、利用者様個々の日課に合わせたケア体制とするが、食事の時間の目安は下記の通りとする。

- ・朝食 7時30分ころ～
- ・昼食 12時00分ころ～
- ・夕食 18時00分ころ～

(5)行事予定

各ユニット毎に、季節に応じた各種行事を企画し、実施する。
家庭的な雰囲気を中心に、利用者様の個々の時節の行いを継続できるよう支援する。
全体で行なう行事としては、花むつみ祭を9月上旬に行なう。

(6)事業所の名称等

- ①風薫る宿 花むつみ
横手市十文字町睦合字川井川47番地

(7)営業日等

- 営業日 = 年中無休 24時間
定員 = 28名
職員数 = 10～15名 (その他、事務調理等)

3.小規模多機能の家 花むつみ・サテライト花むつみ

(1)基本方針

- ①利用者が住み慣れた地域でその人らしい生活を継続できるよう、通い、訪問、泊まり等を柔軟に組み合わせ必要な日常生活上の援助を行い、利用者がその有する能力に応じ、その居宅において自立した日常生活を営むことができることを目的とする。
- ②サービスの提供にあたっては、小規模多機能型居宅介護サービス計画書に基づき、漫然かつ画一的にならないように、利用者の機能訓練及びその方が日常生活を営むことができるよう必要なサービスを提供する。
- ③小規模多機能型居宅介護の利用者に対して通い及び訪問及び泊まりサービスを合わせて概ね週4日以上をめざす。
- ④登録者が通いサービスを利用していない日においては、可能な限り、訪問サービスの提供による見守り等を行う等登録者の居宅における生活を支えるために適切なサービスを提供する。
- ⑤事業所の運営にあたっては、地域住民又はその自発的な活動等との連携及び協力を図り、サービスを提供する。
- ⑥サービスの実施にあたっては、横手市、地域包括支援センター、医療、福祉サービス等と綿密な連携を図り、適切なサービスの提供に努めるものとする。

(2)利用者様の処遇

- ・小規模多機能サービスの特性を生かし、その人にあった介護サービスを行い、人とのつながりを大切にして孤独感から解放し、こころ豊かな生活を送れるようサービスを進める。
- ・住み慣れた地域での在宅生活を送れるよう、利用者の一人一人の生活の流れに沿った、個別性の高いサービスを提供できるよう、職員が生活の支援者として、利用者の傍らに寄り添ったサービスを提供する。
- ・食事に力を入れ、身体状況、栄養、嗜好に配慮した食事を提供する事は勿論のこと、季節感を大切にし、時節の行事等に応じた食事の提供を行なう。
- ・小規模多機能利用者及びその家族の在宅介護生活を全面的に支援させて頂くために、外部業者と連携をし、小規模多機能サービスの提供時間外でケアマネジメント上で必要なご

利用者への、24時間の見守りサービスを行なう。

(3)健康管理

看護師は、必要に応じて健康保持のための適切な措置を取る。

体温、脈拍、血圧、体重測定などにより日々の健康管理を行ない、利用者様の身体的、精神的特徴を考慮し、個人の健康状態の的確な把握に努める。

設備、備品等の衛生管理に努め、または、衛生上必要な措置をし、医薬品、医療用具の管理を適正に行なう。

感染症の発生、蔓延を防止するために感染症対策マニュアルに沿って必要な措置を講じる。

(4)日 課

利用者様個々の日課に合わせたケア体制とするが、食事の時間のみの目安は下記の通りとする。

- ・朝食 7時30分ころ～
- ・昼食 12時00分ころ～
- ・夕食 18時00分ころ～

(5)行事予定

季節に応じた各種行事を企画し、実施する。家庭的な雰囲気的大事にし、利用者様の個々の時節の行いを継続できるように支援する。また日々のレクリエーション等もおおまかせ、利用者様が安心できる施設運営を行なう。

全体行事としては、花むつみ祭を9月上旬に行なう。

(6)事業所の名称等

①小規模多機能の家 花むつみ

横手市十文字町睦合字川井川47番地

②小規模多機能の家 サテライト花むつみ

横手市十文字町十五野新田字十浦下夕70番地3

(7)営業日等

営業日 = 年中無休 24時間

定 員 = ①小規模多機能の家 花むつみ 29名(登録可能人数)

②小規模多機能の家 サテライト花むつみ 18名(登録可能人数)

職 員 数 = ①小規模多機能の家 花むつみ 10～15名 (その他、事務調理等)

②小規模多機能の家 サテライト花むつみ 6～7名

4.居宅介護支援 介護の相談所 花むつみ

(1)基本方針

①利用者が要介護状態となった場合においても、可能な限り居宅においてその有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう配慮して援助に努める。

②利用者の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、利用者自らの選択に基づき、適切な保健医療サービス及び福祉サービスが、施設等の多様なサービスや事業者の連携を得て、総合的かつ効果的な介護サービス計画に基づいて介護サービスが提供されるよう配慮して行なう。

③利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立って、利用者に提供されるサービ

ス等が特定の種類または特定の事業者に不当に偏することのないよう、公正中立に行なう。

- ④事業の運営に当たっては、保険者、他の在宅介護支援センター、他の居宅介護支援事業者、介護保険施設等との連携に努める。
- ⑤利用者の要介護認定等に係る申請に対して、利用者の意思をふまえ、必要な協力を行う。また、要介護認定等の申請が行われているか否かを確認し、その支援も行なう。
- ⑥保険者から要介護認定調査の委託を受けた場合は、その知識を有するよう常に研鑽に努め、被保険者に公正、中立に対応し正しい調整を行なう。
- ⑦上記の他「指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準」を遵守する。

(2)地域の介護相談所としての役割

花むつみのある十文字西地区は介護施設が他になく、当施設が西地区の介護福祉の向上を担っていくためにも、地域の介護の相談所として包括的な相談が可能となるよう地域住民の声を拾い還元していく。

また、在宅サービスであるデイサービスや小規模多機能事業所・ショートステイ事業所との連携も含め、地域の在宅介護の実状を把握し、在宅サービス部分のサービス向上を推進していく。

(6)事業所の名称等

- ①介護の相談所 花むつみ
横手市十文字町睦合字川井川47番地

(7)営業日等

営業日 = 月～金曜日(祝日・盆・年末年始除く)
定員 = 介護支援専門員 1名あたり20～25名
職員数 = 2名 (その他、事務調理等) ※利用者数により増

5.通所介護 炭酸の湯 ほっとデイ 花むつみ

(1)基本方針

- ①事業所の従業者は、要介護状態等の心身の特性を踏まえて、その利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、さらに利用者の社会的孤立感の解消及び心身機能の維持並びにその家族の身体的、精神的負担の軽減を図るために、必要な日常生活上の世話及び機能訓練等の介護その他必要な援助を行う。
- ②事業の実施に当たっては、利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ってサービスの提供に努めるものとする。
- ③予防事業については、利用者の心身機能の改善、環境調整等を通じて、利用者の自立を支援し、生活の質の向上に資するサービス提供を行い、利用者の意欲を高めるような適切な働きかけを行うとともに、利用者の自立の可能性を最大限引き出す支援を行なうこととする。

(2)利用者様の処遇

- ①日常生活動作の程度によって、身体の介護に関する必要な支援及びサービスを提供する。
・移動、移乗の介助 ・排せつの介助 ・その他必要な身体の介護
- ②家庭における入浴が困難な利用者に対して、必要な入浴サービスを提供する。

- ・衣類着脱の介助 ・身体の清拭、洗髪、洗身 ・その他必要な入浴の介助
※人工炭酸泉を導入し、その効果効能を堪能していただく。
- ③昼食を希望する利用者に対して、必要な食事サービスを提供する。
 - ・準備、後始末の介助 ・食事摂取の介助 ・その他必要な食事の介助
- ④利用者が生きがいのある、快適で豊かな日常生活を送るために必要な支援及びサービスを提供する。
 - ・レクリエーション ・グループワーク ・行事活動 ・体操 ・機能訓練 ・休養、養護
- ⑤送迎を必要とする利用者に対して、必要な支援及びサービスを提供する。
 - ・移動、移乗動作の介助 ・送迎
- ⑥利用者及びその家族の日常生活における身上、介護等に関する相談及び助言を行なう。
 - ・生活、身上、介護に関する相談、助言 ・その他必要な相談、助言

(3)健康管理

看護師は、必要に応じて健康保持のための適切な措置を取る。
体温、脈拍、血圧、体重測定などにより日々の健康管理を行ない、利用者様の身体的、精神的特徴を考慮し、個人の健康状態の的確な把握に努める。
設備、備品等の衛生管理に努め、または、衛生上必要な措置をし、医薬品、医療用具の管理を適正に行なう。
感染症の発生、蔓延を防止するために感染症対策マニュアルに沿って必要な措置を講じる。

(4)日 課

利用者のケアプランに沿って、個々の生きがいを大切にし、自立心を促し、個別の活動メニューに応じた日課で過ごしていただく。
営業時間内におけ利用者様個々の日課に合わせたケア体制とするが、食事の時間のみの目安は下記の通りとする。
・昼食 12時00分ころ～

(5)行事予定

季節に応じた各種行事を企画し、実施する。家庭的な雰囲気을大事にし、利用者様の個々の時節の行いを継続できるように支援する。また日々のレクリエーション等もおおまげ、利用者様が安心できる施設運営を行なう。
全体行事としては、花むつみ祭を9月上旬に行なう。

(6)事業所の名称等

- ①炭酸の湯 ほっとデイ 花むつみ
横手市十文字町睦合字宿屋布14番地8

(7)営業日等

営業日 = 月曜日～金曜日(年末年始除く)
営業時間 = 9時30分～16時30分 (7時間)
定 員 = 1日あたり10名
職 員 数 = 3～5名 (利用者数に応じて人員配置)

<児童福祉事業>

6.にし杜保育園

(1)目的

児童福祉法及び子ども・子育て支援法に基づき、保育を必要とする児童の保育を行なう。

(2)運営方針

- ①当園は、保育を必要とする乳児及び幼児を日々受け入れ、良質な水準かつ適切な内容の保育の提供を行うことにより、すべての子どもが健やかに成長するために適切な環境が等しく確保されることを目指す。
- ②当園は、保育の提供にあたっては、子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を増進することに最もふさわしい生活の場を提供するよう努める。
- ③当園は、園児の属する家庭及び地域の様々な社会資源との連携を図りながら、園児の保護者に対する支援及び地域の子育て支援等を行うよう努める。
- ④当園は、児童福祉法、子ども・子育て支援法、その他関係法令を遵守し運営を行なう。

(3)健康管理

看護師は、必要に応じて健康保持のための適切な措置を取る。

体温、脈拍、血圧、体重測定などにより日々の健康管理を行ない、園児の身体的、精神的特徴を考慮し、個人の健康状態の的確な把握に努める。

設備、備品等の衛生管理に努め、または、衛生上必要な措置をし、医薬品、医療用具の管理を適正に行なう。

感染症の発生、蔓延を防止するために感染症対策マニュアルに沿って必要な措置を講じる。

(4)行事予定

季節に応じた各種行事を企画し、実施する。あくまで、子どもたちの生活の流れに沿ったものであり、一人ひとりの子どもが日常の中で培った力を発揮し、保育園での生活が豊かになり、自らの成長を実感し、自信を持てる場になるよう努める。

全体行事としては、花むつみ祭を9月上旬に行なう。

(5)特別保育の実施状況

延長保育、病児保育(体調不良児対応型)、乳児保育、障がい児保育、一時預かり保育

(6)事業所の名称等

①にし杜保育園

横手市十文字町植田字一ト市127番地3

(7)営業日等

開園日 = 月曜日～土曜日(年末年始除く)

休園日 = 日曜日、祝日

開園時間 = 7時30分～19時00分

保育時間 = 標準:7時30分～18時30分 (延長保育)16時30分～19時00分

短時間:8時00分～16時00分 (延長保育)朝7時30分～8時00分

夕16時30分～19時00分

利用定員 = 70名 (認可定員80名)

職員数 = 20名 (調理員は外部委託のため除く)※株式会社メフォス

(7)嘱託医

内科：岡田小児科医院 岡田 信親

歯科：パール歯科医院 齋藤 祐子

7.学童保育 十文字なかよし

(1)運営方針

- ①事業所は、小学校に就学している児童であって、その保護者が労働等により昼間家庭にいないものつき、家庭、地域等との連携の下、発達段階に応じた主体的な遊びや生活が可能となるよう、当該児童の自主性、社会性及び創造性の向上、基本的な生活習慣の確立等を図り、もって当該児童の健全な育成を図るものとする。
- ②事業所は、地域社会との交流及び連携を図り、児童の保護者及び地域社会に対し、当該事業所が行う放課後児童健全育成事業の運営の内容を適切に説明するよう努めなければならない。
- ③事業者は、その運営の内容について、自ら評価を行い、常にその改善を図る。
- ④前3項に掲げるもののほか、児童福祉法及び横手市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例(平成26年横手市条例第33号)その他関係法令等を遵守し、放課後児童健全育成事業を実施するものとする。

(2)支援の内容

- ①安全指導
- ②健康管理・衛生管理
- ③遊びの指導
- ④学び(学習)の機会の確保
- ⑤生活指導(基本的生活習慣の習得の指導等)
- ⑥保護者に対する子育て支援
- ⑦その他放課後等における児童の健全育成上必要な支援

(3)健康管理等

- ①利用中に健康状態や心身の状況を把握し、病気や怪我などの場合は、速やかに保護者に連絡をし、状況によっては、利用を中止する場合があること。
- ②小学校の授業休業日に欠席をする場合には、前日もしくは当日午前9時までに事務所に連絡をしていただくこと。
- ③支援提供上、他の利用者の方に迷惑となる行為等が見られた場合、利用の中止をしていただくことがあること

(4)事業所の名称等

- ①学童保育 十文字なかよし
横手市十文字町植田字大清水105番地5

(7)営業日等

- 開所日 = 月曜日～土曜日(年末年始除く)
休所日 = 日曜日、祝日、12/31～1/3
開所時間 = 平日 14時00分～19時00分
 学校休業日(長期休業日含む) 7時30分～19時00分
定員 = 40名

<公益事業>

8.高齢者くらしのサポートセンター花むつみ

(旧事業名：横手市低所得高齢者等住まい・生活支援事業)

(1)基本方針

本事業は、社会福祉法人や市福祉部局と不動産関係者等と市住宅部局がプラットフォームを構築して、低所得等生活支援が必要な高齢者に対して住まいの確保と住まい方の支援をすることで、住み慣れた地域で継続して暮らし続けることと地域互助の形成を目指すものである。

(2)業務の内容

事業の実施に必要な人員を配置した上で、市や事業者で構成する地域連携・協働のネットワークとなるプラットフォーム(地域連携・協働の仕組み)を構築し、当該プラットフォームを通じて住まいに困窮する対象者に対して、地域の利用可能な空き家に関する情報の提供や、入居相談及び入居支援を実施する。

併せて、日常生活に関する支援が継続的に実施できるよう日常的な生活相談や見守り等の生活支援サービスを実施する。

(3)事業概要

事業所名：高齢者くらしのサポートセンター花むつみ

事業実施地域：横手市十文字町(不動産相談等は横手市全域)

職員数：1名(住まいの相談員) 他居宅介護支援事業所と連携して行なう。

9.人材育成養成研修事業

(1)基本方針

自法人内で介護職員初任者研修事業を行い、法人内介護職員の内、無資格者等の資格取得を後押しし人材育成を図ること。また研修定員内で地域住民等へも研修事業として開放し、当法人がもつ介護スキルを地域へ開放していくことを目的とする。

(2)業務の内容

「介護職員初任者研修」として約25項目のカリキュラムからなる研修で、介護サービスの基礎知識や介護の基本動作・認知症の理解など介護職としての基本的知識・動作を学ぶ。

自施設内で行う事により、より実践的に行う。

(3)事業概要

事業所名：花むつみぬくもり”care”スクール 「介護職員初任者研修」講座

事業実施地域：施設周辺地域より受講者募集

職員数：1名(専任) 他、法人内専門スタッフが講師に入る。

以上